

平成30年防災訓練(院内ライフライン講習会)を実施しました

医学部会計課施設管理室

平成30年8月23日(木)18時から「平成30年防災訓練(院内ライフライン講習会)」を実施しました。

電気・給水・医療系ガス等のライフラインは、平常時はもとより、もしもの災害時は大学の特に病院機能を維持するための非常に重要な設備になります。通常は管理部門職員等により維持・管理していますが、災害時には各職員がその設置場所や構造、規模等を認識していることが、防災に必ず役に立つと考えられるため、平成29年6月から年2回程度本訓練を実施しています。

今回は3回目の訓練となり、各職種63名が参加し、前半は施設管理室職員が講義形式による説明を行い、後半は2班に別れ、それぞれ中央機械室の集中管理室、自家発電機による電気供給体制、地下共同溝の配管、受水槽、マニホールド室、災害備蓄品を現地視察し、その場で機能等の説明や質疑を行いました。

毎回、訓練参加者からは、今まであまり意識していなかったライフラインが理解でき、災害時のみならず、通常の業務においても大変参考になったとの意見をいただいております。

今後も、ライフラインに対する理解を深めるため定期的に実施しますので、多数の職員の参加をお願いいたします。



NEWS



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

10月15日～11月14日

対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
10/15(月) 9:30~11:30	平成30年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん相談支援センター	一般	島根大学医学部附属病院
10/16(火) 19:00~20:30	平成30年度島根大学がん医療従事者研修会 「造血細胞移植が必要な患者・家族のQOLを支えるために ～HCTCが参画するチーム医療」 東海大学医学部附属病院 看護部 家族支援専門看護師 三枝 真理 先生	みらい棟4階 ギャラクシー	医療	島根大学医学部附属病院
10/19(金) 18:00~19:00	平成30年度島根大学がん医療従事者研修会 「各種がん治療と口腔ケア」 島根大学医学部 歯科口腔外科講座 松田 悠平 助教	みらい棟4階 ギャラクシー	医療	島根大学医学部附属病院
10/19(金) 19:00~20:00	Novartis Hematology Forum in Shimane 「骨髄増殖性腫瘍(MPN)の診断と治療の進歩」 慶應義塾大学 医学部 血液内科 教授 岡本 真一郎 先生	★ツインリーブスホテル 出雲 2階Aルーム	医療 本学	バルティス ファーマ株式会社
10/23(火) 18:30~19:30	リンパ系腫瘍セミナー 「第五回 びまん性大細胞B細胞リンパ腫」 島根大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科 鈴木 律朗 准教授	ゼブラ棟2階 多目的室①	医療 本学	島根大学医学部附属病院 先端がん治療センター
10/31(水) 18:30~19:30	リンパ系腫瘍セミナー 「第六回 パーキットリンパ腫とMYC」 島根大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科 鈴木 律朗 准教授	ゼブラ棟2階 多目的室①	医療 本学	島根大学医学部附属病院 先端がん治療センター
11/14(水) 19:00~20:00	島根血液感染症フォーラム 「(仮)サイトメガロウイルス感染症の予防と治療」 兵庫医科大学 内科学 血液内科 講師 池亀 和博 先生	みらい棟4階 ギャラクシー	医療 本学	M S D 株式会社

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

CONTENTS

- ・病院職員の皆様へ
高度医療推進等基金を活用してください
- ・平成30年度島根大学医学部支援協議会総会が開催されました
- ・平成30年防災訓練(院内ライフライン講習会)を実施しました
- ・島根大学医学部における
研修会・セミナー開催情報



高度医療推進等基金を活用してください

いかわ みきお
病院長 井川 幹夫

当院は高度で先進的な医療の開発、高度医療を実践できる人材の養成等により特定機能病院の役割を果たす責務があることはご存知の通りです。当然、保険適用外の診療を実施する場合には費用負担の問題が発生し、これまで状況に応じて病院が経費をサポートしてきました。この度、その支援を強化するため、寄付金を原資とした基金を設け、病院全職員に活用してもらう体制を構築しました。基金を活用した事業項目としては、診療の高度化、臨床研究の活性化、高度医療の実施に伴う患者負担の軽減などがあります。具体的な例を挙げると、今年度の診療報酬で適用が拡大されたロボット支援手術では、肺葉切除術・縦隔腫瘍摘出術、膵疾患に対する膵切除術、直腸がんに対する手術に備えてサーティフィケート取得のための受講料、実施施設での見学などが支援の対象となります。さらに当院で実施するロボット支援手術のプロクター招聘費用、施設認定に必要な症例数を集積するための診療費用も基金で負担します。ロボット支援手術の他にも高度医療と見做される手術、処置も支援の対象となりますが、原則として当院の高難度新規医療技術評価委員会の承認を受けていることが前提となります。手術以外で基金の対象となる例として、がんゲノム医療の遺伝子パネル検査の費用、検査結果から効果が期待される医薬品が保険適用外で患者さんの経済的負担を軽減する場合などがあります。使用する医薬品はあらかじめ未承認新規医薬品等・適応外使用評価委員会の承認を得ておくことが望まれます。

基金の運用を審議するため、島根大学医学部附属病院高度医療推進等基金運用委員会を置き、事業計画、事業報告ならびに予算に関する審議を行います。委員会の構成メンバーは病院長、副病院長、事務部長等で、病院長が委員長を務め、審議結果は病院運営委員会で報告します。この高度医療推進等基金の活用により、当院の特定機能病院としての役割が強化され、県民のご要望に応える診療を提供することを目指します。

がんゲノム医療センターにおけるプレシジョン検査の概要



ロボット支援手術推進センター

2018年度診療報酬改定において、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を利用したロボット支援下内視鏡手術の保険適用が拡大されたことを受け、各種がんに対する適正かつ安全なロボット支援内視鏡手術を実施するため、術者の資質向上の推進と診療科横断的にマネジメントできる体制の構築を目的とする。

保険診療として実施可能なもの

- 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

上記2手技を含む14手技へ拡大

保険診療として実施可能なもの

- 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
- 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術
- 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術
- 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術
- 胸腔鏡下成形術
- 腹腔鏡下胃切除術
- 腹腔鏡下噴門側胃切除術
- 腹腔鏡下胃全摘術
- 腹腔鏡下直腸切除・切断術
- 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
- 腹腔鏡下膣式子宮全摘術



平成30年度 島根大学医学部支援協議会総会が開催されました

去る、8月28日(火)ラピタウェディングパレスにおいて、平成30年度島根大学医学部支援協議会総会が開催されました。

この支援協議会は、「島根大学医学部が、地域に根ざした大学として今後一層発展するために必要な支援を行うことを目的」として平成14年4月に発足し、17年の長きに亘りご支援をいただいております。本協議会の趣旨に賛同いただいた会員も86名と年々増加しています。

当日は、当支援協議会の相談役である長岡秀人出雲市長、宮本享会長(出雲市議会議員)、藤河正英副会長(出雲市副市長)、三吉庸善副会長(出雲商工会議所会頭)、参与である県議会議員の佐々木雄三氏、森山健一氏、原成充氏、遠藤力一氏、大国陽介氏、高見康裕氏、理事である岡田達文JA出雲地区本部副本部長、山根善治JA斐川地区本部本部長、山崎茂樹出雲商工会会長、島根県立大学から山下一也副学長、一般財団法人恵雲会から後藤郁則理事長等々各方面からの出席があり、島根大学医学部からは、並河徹医学部長、井川幹夫病院長、長塚正明事務部長、嘉本龍二総務課長、横山哲也会計課長が出席し、川上幸博幹事長(出雲市議会副議長)の司会により盛大に開催されました。

宮本会長の挨拶のあと、相談役である長岡市長、一般財団法人恵雲会の後藤理事長の二人にご祝辞を頂戴しました。

総会では、平成29年度事業報告や平成30年度事業計画等の審議があり、各議案とも異議なく了承され、本年度も例年どおりの10,700千円のご支援をいただくこととなりました。

その後、並河医学部長から「島根大学医学部がめざす多様な医療人材育成と医学・医療への貢献」、井川病院長から「島根大学病院ニュース2018」と題した二題の講演があり、参加者は、医学部の現状や取り組み、附属病院の新しい医療の話に熱心に耳を傾けていただきました。

島根大学医学部及び附属病院が、支援協議会の力強い支援を受けながら、益々地域に必要とされ、地域の方々に愛される大学や病院になっていく思いを強くした総会でした。





病院アメニティ向上ワーキンググループを立ち上げました

病院アメニティ向上ワーキンググループ

この度、来院される患者さんはもちろんのこと、職員や医学部の学生を対象とし、病院内における各種のサービスや設備面における利活用に関し、具体的な改善プランを検討する「病院アメニティ向上ワーキンググループ」を立ち上げました。

ワーキンググループのメンバーには、医師、看護師、医療スタッフ、事務職員といった各職種からの代表者と、病院職員だけではなく、コンビニエンスストア、食堂、コインランドリーなど病院内でサービスを提供する事業者も参画し、サービスを利用する側と提供する側の双方からの目線で、病院アメニティの質向上のための検討を行っていきます。

第1回目のワーキンググループは9月3日に開催し、患者さんへのアンケートから寄せられた「コンビニエンスストアの商品が病室に配送出来ないか」、「コインランドリーの台数が少なくて困った」とのご意見をとり上げ、議論を交わしました。

コンビニエンスストア商品の配送については、患者さんから注文いただいた商品だけを病室に届けるようにするのか、またはワゴンサービス形態により様々な商品を各病室へ届けることは出来ないかなど、どのようにサービスが行うのが良いかを話し合った上で、ワーキングメンバーであるコンビニエンスストア事業者が具体的なプランを立てることとし、サービス実施に向けた一歩目が動き出しました。また、ご意見いただいたフロアのコインランドリーの混雑解消に向けては、利用頻度が低い他フロアからランドリーの移設を行い、改善を図ることといたしました。

これからも患者さん・職員・学生からの要望にお応えすべく、丁寧な議論・検討を重ね、より利便性の高いサービス・設備の提供に努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力の程よろしくお願いたします。



「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム」を開催いたしました

看護部 緩和ケアセンター看護師長 三吉 由美子

島根県内のがん診療連携拠点病院間が連携し、昨年度から当院が会場となり、がん看護研修を実施しています。質の高いエンドオブライフケアの提供のために、9月22日～23日に2回目となる「ELNEC-J」コアカリキュラム看護師教育プログラムを開催いたしました。島根県内の看護職を対象に、益田地区、浜田地区、出雲地区、松江地区から多数の受講希望者がありました。がんのみならず慢性疾患や老いなど、全ての患者さん・ご家族へ質の高いエンドオブライフケアを提供できるように、知識・技術を習得することを目的とした研修です。患者さん・ご家族へ痛み・症状のマネジメント、倫理的問題などの包括的な学習ができるように、講義やロールプレイ形式の演習・グループワークを計画し、学びをすぐに実践に活かすことができる内容としました。受講生からは、「とても勉強になり、質の高いケアを提供できるように努力したい」との感想があり、情報交換や相談の機会も得られ、お互いの繋がりが強くなりました。9月23日には34名の看護師が修了式をむかえることができ、修了証を授かりました。

今後はエンドオブライフケアの向上のために、受講生と力を合わせて1歩ずつ前進し、次年度も島根県内に発信していきたいと考えています。





ご報告

環境整備ボランティア活動を行いました

医学部会計課施設管理室

当院の草刈等の環境整備は、地域のボランティアの方々にお世話いただいたり、業者に委託し実施していますが、平成29年9月からは、環境整備ボランティアの制度を発足させ、職員・学生も環境整備を行うようになりました。

今回は、9月8日(土)に実施した環境整備ボランティア活動のご報告です。

当日の天気予報はあいにくの雨でしたが、作業が終わる10時(作業時間:9時~10時)までは曇り空となり、むしろ残暑のない作業しやすい環境の中で、井川病院長や職員総勢13名により、臨床研究棟北側からロータリー、第二研究棟南側の草刈、樹木の剪定等当初の予定どおりの作業ができました。

今後も当院の美観を維持するため、環境整備ボランティア活動を行っていききたいと思いますので、職員・学生のご理解・ご協力方よろしくお願いいたします。



お知らせ

第15回 島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催します

地域における継続的な医師不足問題に対し、当院では地域医療等を目指す医師に対する研修体制の強化等を含む積極的な取り組みを行っているところですが、地域医療の充実、更なる発展のためには、地域の病院との機能的な役割分担と各方面での密接な協力体制の構築が不可欠です。

このたび、これらの諸問題を踏まえて、一層の協力・連携体制づくりを念頭に、第15回目の標記会議を下記のとおり行うことといたしましたので、関係の皆様にはご出席方よろしくお願い申し上げます。

- ① 日 時 平成30年 **10月25日**(木)
18時から ※休憩を挟み2時間半程度
- ② 場 所 **ニューウェルシティ出雲**
(出雲市塩冶有原町2-15-1)(電話:0853-23-7388)
- ③ 議 題 等

- (1) 教育・研修
 - 1) 地域医療支援学講座
 - 2) 卒後臨床研修センター
 - 3) しまね地域医療支援センター
 - 4) 厚生労働省 外傷外科医養成研修事業
 - 5) Surgical trainingについて
- (2) 診療体制整備状況
 - 1) アレルギーセンター
 - 2) がんゲノム医療センター
 - 3) ロボット支援手術推進センター
 - 4) 災害医療・危機管理センター
- (3) 診療・他
 - 1) ダ・ヴィンチによる膀胱全摘除術
 - 2) TAVI実施状況
 - 3) ISO15189認定取得
 - 4) 医師会・歯科医師会員限定人間ドック
 - 5) ドクターカーの運用
 - 6) 再骨折予防の取り組み
 - 7) 臨床倫理委員会
- (4) 先進医療新規追加分
 - 1) 血中TARC濃度の迅速測定
- (5) 臨床研究
 - 1) 臨床研究センターの活動
 - 2) 医師主導臨床研究:肺癌患者の血栓塞栓症(Rising-VTE試験)
 - 3) 先天性骨系統疾患に対する高純度間葉系幹細胞を用いた骨再生
- (6) 医師派遣検討委員会
- (7) 当院の運営状況





ご報告



ご報告



第15回医師臨床研修協議会を主管

おにがた かずみち
卒後臨床研修センター センター長 鬼形 和道

国立大学附属病院長会議の定める協議会の1つである「医師臨床研修協議会」を島根大学が主管し、2018年9月21日(金)に出雲市で開催いたしました。全国42の国立大学病院から臨床研修センター長等と事務担当者、総勢100余名が集まりました。

厚生労働省の岡部室長より新たな臨床研修制度を、文部科学省の荒木企画官より卒前卒後のシームレスな医学教育をそれぞれ紹介いただきました。

「島根県における研修医の支援について」のセッションでは、私が「地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告(平成29年度)」を解説、しまね地域医療支援センターの家本事務局長が支援センターの活動を、そして井川病院長が医師派遣検討委員会の活動取り組みを紹介しました。島根県における研修医の支援および地域医療への貢献をアピールできたと思います。

これに先立ち、高度外傷センターの見学会が開かれました。渡部センター長により概略説明、比良講師によるハイブリッド手術室の説明に、全国の先生方から羨望の眼差しと称賛の意見が寄せられました。



松江市民フォーラム 「島根大学病院の最新治療」2018秋を開催しました

9月29日(土)に、島根大学医学部附属病院が主催する松江市民フォーラム「島根大学病院の最新治療」2018秋を島根大学松江キャンパス大学ホールで開催いたしました。

このフォーラムは、松江市民の方々に当院の最新治療を知っていただき、健康の維持に役立てていただきたいとの思いで計画したもので、今回で5回目の開催となります。

回数を重ねるごとに来場者も増え、これまでの会場では入場制限を設けていましたが、今回は会場を大学ホールに移し、ゆったりと講演を聞いていただくことができました。

当日は、多くの方々にご来場いただき、それぞれの最新治療に耳を傾けていました。

このフォーラムが、松江市民の方々の健康増進に役立つこと、また当院と市民の皆さんを繋ぐ架け橋となることを期待し、今後も継続的に開催する予定です。



井川病院長

講演内容

- ① 膀胱がんの治療について～新しい治療薬と手術～
ロボット支援手術推進センター長
泌尿器科 准教授 安本 博晃
- ② 炎症性腸疾患センターの取り組み:新しい適切な診断と治療を求めて
IBDセンター長
消化器内科 准教授 石原 俊治
- ③ 回復が早い胸腔鏡下(きょうくうきょうか)手術
呼吸器外科
診療科長 准教授 岸本 晃司



泌尿器科 安本 准教授



消化器内科 石原 准教授



呼吸器外科 岸本 准教授





ご報告

島大病院ニュース 2018年10月

平成30年度 しまね専門研修プログラム説明会を開催しました

しまね地域医療支援センター

一般社団法人しまね地域医療センターでは、8月9日(木)、松江市のサンラポーむらくもにおいて、島根県及び島根大学医学部附属病院との共催により、しまね専門研修プログラム説明会を開催しました。

今年度から新専門医制度が始まり、島根県では37名の専攻医(卒後3年目医師)が県内で専門研修を行っています。今回の説明会は、これから専門研修先を選ぶ初期研修医に県内のプログラムについて理解を深め、キャリア形成の参考にさせていただくことを目的に開催しました。

説明会には、松江、出雲市内の病院から12名の初期研修医が参加し、始めに島根大学医学部附属病院、県立中央病院、県立こころの医療センター、総合診療専門医ネットワークから、各プログラムの概要を説明していただきました。その後、診療科、病院別に個別相談を行い、参加研修医は、希望する診療科や病院のプログラム責任者、指導医から、詳しい説明を聞いておられました。また個別相談の間には、軽食を取りながら参加者同士交流を深めていただきました。

今回は初めて松江で開催しましたが、今後も多くの研修医にしまねの専門研修を選んでいただけるよう、情報発信していきたいと思っております。



プログラム概要説明



個別相談 & 交流会



平成30年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2018年10月

TAVIの視界良好!

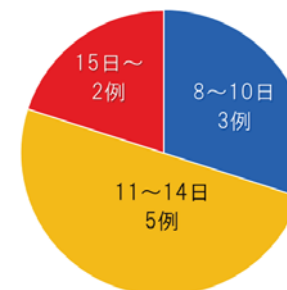
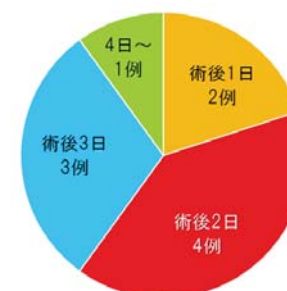
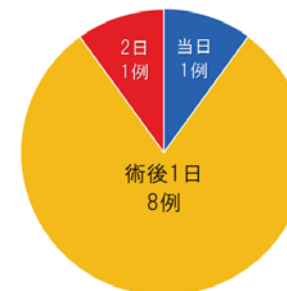
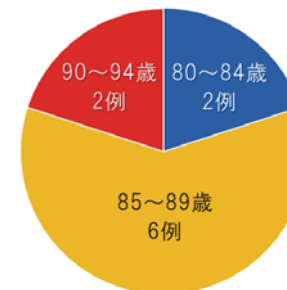
(タビ:経カテーテル大動脈弁留置術)

総合ハートセンター
えんどう あきひろ
遠藤 昭博
たなべ かずあき
田邊 一明

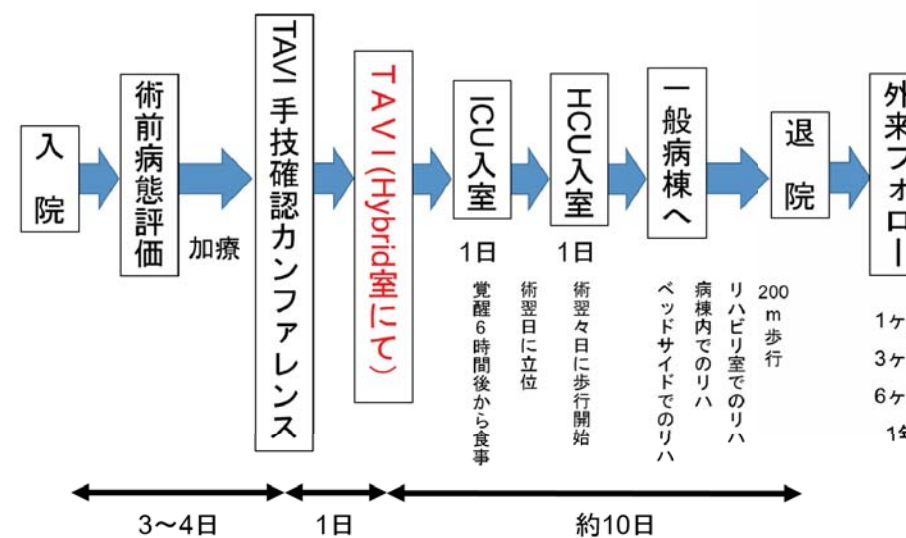
当院でTAVI(Transcatheter Aortic Valve Implantation)を4月に初めて施行して以来、およそ半年が経過しました。ハートチームで症例の適応や手術手技、運用などについて一つひとつ慎重に検討を重ねながら、月に一度のペースでTAVIを施行し、これまでに10例の治療を行いました。ハートチーム全員で協力し合い、十分な検討の上で施行しているおかげもあってか、全例で生体弁の留置に成功し、1例の合併症を生じることも無く、みなさまに軽快退院していただいております。

これまでの症例の平均年齢は87歳(83~92歳)、女性が7割を占めており、外科手術を施行した場合の死亡リスクを予測するSTS scoreは平均12%と多くの症例がこれまでであれば弁置換術を考慮されなかったであろうと思われる方々でした。そして出雲市在住の方が6例、出雲市以外の県東部の方が2例、県中部の方は2例をご紹介いただいております。近々県西部の方を治療する予定になっています。手術時間も初めは3時間近くかかっていたのが徐々に短くなり、9月の症例は2時間を切るまでに短縮しました。TAVI後2日目までに全員が食事開始・立位可能となり、3日目には9割の方が歩行リハビリ開始、2週間以内に8割の方が軽快退院しておられます(平均13日)。

今後もハートチーム一同、有効で安全な医療を提供できるよう精進してまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



TAVI入院後のflow



平成30年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





(環境マネジメントシステム)

ISO14001の定期審査

医学部附属病院EMS対応委員会委員長 こだま たつお
児玉 達夫

島根大学では、環境に関する国際標準規格であるISO14001の認証を、2006年3月に松江キャンパスで取得し、2008年3月に出雲キャンパスを含めた拡大認証を取得しました。2012年以降は出雲キャンパス単独で認証を更新し、5月にはISO14001/2015の規格要求事項に適合していると認められました。学内組織としてEMS対応委員会を設置し、環境教育・環境研究、エネルギー、生活系、実験系、診療系の各作業部会に分かれて活動しています。作業部会ごとに目的・目標を設定し計画を立て、活動に取り組んでいます。当院内で取り組んでいる医療安全や感染対策などの業務と環境管理活動をリンクして行い、安心安全な医療環境の確立や感染性廃棄物の適切な管理を行っています。



学長インタビュー

昨年度の更新審査に引き続き、去る8月20日～8月22日に認証機関による定期審査を受審したところ、6件がグッドポイントとして評価されました。具体的に、そのうち3件を簡単に紹介します。1つ目は院内アンケートから抽出される苦情に対する組織的な対応体制が顧客満足度の向上を意識した取組であること、2つ目は診療系作業部会で環境目的に挙げている「安心・安全な医療環境の確立」は、医療安全管理部の事業プロセスに統合して取り組んでいること、3つ目は放射線部のEMS活動の取組(放射線部構成員向けのHPの立ち上げ、質の高い検査を行なうべく撮影実施マニュアルのデータ化・情報の共有・更なるマニュアル改訂への継承)です。他に改善の機会6件を外部審査員より指摘頂きましたので、今後の活動の改善に活かしていきます。



A・B病棟4階



施設見学(病院正面玄関)



MEセンター



放射線部



夏季地域医療実習を開催しました!

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき
佐野 千晶

意欲溢れる医学生が、大学の夏休み期間に「夏季地域医療実習」を行いました。この実習は、松江、出雲、雲南、飯南、奥出雲、県央、浜田、益田、隠岐島後、隠岐島前の県内10ヶ所の各々の地域における、医療・福祉・介護の地域のリソース全体を見渡すことが出来る3日間の体験参加型プログラムとなっています。今回は、島根大学、鳥取大学、自治医科大学、山梨大学から37名の参加応募があり、受け入れ人数いっぱいの満員御礼でした。

島根大学医学部における報告会では、参加者が各自の体験を整理、言語化することを意識して、少人数グループでの話し合いを2時間程度行いました。参加学生さんからは、「患者さんと医師との距離が近く、患者さんの背景を理解した医療が提供されていると思った。」「医療従事者全体の高齢化を肌で感じた。」「もう少し、実習のいい部分を周囲に宣伝する工夫がほしい。」「訪問診療の重要性、ニーズを実感した。」「医療者の確保には、住民の皆さんの主体的な動きが必要ではないか。」「こういった実習機会をもっと増やしてほしい。」「といった声があがっていました。私から学生さん達へは、こういった実習が出来ることに感謝し、真摯に日々学びを継続するようといったメッセージを伝えました。

今後多くの医学生が地域医療実習に参加することによって、「島根」に愛着をもち、「島根の医療」の課題に取り組んでくれることを期待しています。

本実習は、保健所をはじめ多くの施設や皆さんによる医学教育へのご理解と多大なご協力のもと、成り立っております。心より御礼申し上げます。





お知らせ

平成30年度緩和ケアセンターの市民広報活動イベント ホスピス緩和ケア週間

なかに としひこ
緩和ケアセンター センター長 中谷 俊彦

当院は都道府県がん診療拠点病院の指定をうけており、医療圏の市民の皆さんへ緩和ケアを普及・啓発し、専門緩和ケアを提供する役割を担っています。出雲市及び周辺地域の市民の皆さん・医療関係の皆さんを対象に、緩和ケアセンターの市民広報活動として、ホスピス緩和ケア週間のイベントを開催します。是非、ご参加ください。

① ちょっと気になる健康講座「緩和ケアと栄養」緩和ケアセンター講師 須藤医師

日時：平成30年10月11日(木) 11:00～11:30

場所：医学部附属病院1階ロビー

② 院外広報活動イベント：テーマ「つなげる, 緩和ケア」

日時：平成30年10月13日(土) 11:00～12:00

場所：イオンモール出雲店 1階タリーズコーヒー前

内容

- ・緩和ケア病棟紹介
- ・寸劇(緩和ケアの解説をわかりやすく行います)
- ・緩和ケアリーフレットとフウセンかずらの種配布
- ・各医療専門職種による緩和ケア解説のポスター展示
- ・ミニコンサート：白築 純さんのトーク&ライブ

白築 純

相模原生まれ、桐朋学園大学在学中からジャズボーカリストとしてプロ活動を開始して、現在は掛合町に在住し、山陰を拠点に自身の音楽を全国に発信しています。

